

2004年11月10日(水)

13:00 - 14:00 グループ研究

研究テーマ: <カネ> コンソーシアム

参加者: 小野(東邦大学) 伊藤(立教大学) 星野(跡見学園女子大学) 坂下(法政大学)

敬称略

1. コンソーシアムの定義について

共同体、連合等として翻訳されている。グループとしては、どのように捉えるか。

(別紙「「コンソーシアム」という言葉の意味」参照)

2. 前回からの宿題経過報告と今後の方針について

国内・海外の代表的なコンソーシアム事例を研究し、成功の要因または不足している点について分析・検討していく。ただし、コンソーシアムのうち電子ジャーナル等の共同購入を目的としているケースは研究対象から除く。

コンソーシアムには大まかに「共同購入」と「人材育成」の2つの目的が挙げられるが、

仮想コンソーシアムでの実現性が低いこと、グループ参加者の大学図書館間では実現に移しにくいことの2点により、今回の研究では「人材育成」に重点を置き研究を行う。なお、レファレンスコンソーシアムについては、レファレンス事例の共同構築につながるため研究対象とする。

3. 次回までの宿題:

下記分担の最低1つについて、A4一枚程度に要点をまとめ、参考文献があれば紹介する。

【国内】 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム【伊藤】

多摩アカデミックコンソーシアム(TAC)【伊藤】

日本医学図書館協会(JMLA)【坂下】

CAN(キャン)私立大学コンソーシアム【星野】

大学コンソーシアム京都【坂下】

京阪奈ライブラリーコンソーシアム【星野】

【海外】 OhioLINK(米国)【小野】

NESLI(英国)【小野】

4. 開催予定

2004年12月8日(水)13:00より 立教大学会議室にて

5. 配付資料

「コンソーシアム」という言葉の意味

コンソーシアム研究の切り口(これまでの出た案)

以上